



企画にあたって

井川 修

(日本医科大学多摩永山病院 / セントマーガレット病院 内科・循環器内科)

循環器疾患の病態の理解，評価，治療にあたっては，正常心臓解剖の正確な理解が必要であることはいままでもない。治療前，さまざまなモダリティーを駆使し解剖情報の詳細を得て，病態評価に活かす努力がなされているとはいえ，得られた情報を「真の解剖情報」として評価しているかどうかは疑問な場合も少なくない。その解釈と臨床応用には，臨床所見を解剖に反映させることのできる臨床力と正確な解剖学的知識が求められる。心臓解剖を考慮した心疾患治療は基礎となる情報の正確性が必須である。

本特集では，基礎から考える正確な心臓の構造認識（臨床に生きる基礎の力）をテーマに，心臓の解剖を基礎から徹底的に見直し，さまざまなモダリティーのなかにある構造所見との対応を考えていきたい。ご執筆者には，本書の趣旨をご理解いただき情熱をもって書き下ろしていただいた。多くの事例を可能な限り neutral position で提示していただき，読者にイメージをとりやすく配慮していただいている。

一見，当たり前と思われる構造の中にも，臨床を考慮した解剖学的な目でもって改めて詳細に眺め直すと，そこには新たな発見と思いがけない展開が生まれてくるものと信じている。